

災害発生時，中期，回復期の対応についての演習

発生時（平常時に想定した状況より，強度の災害がきたこととする）

1. 第一報はどこから来るのか，どこにその情報を流すのか
（ア）どこから

（イ）保健所としてどんな情報を付加して，どこに流すのか

①所内

②所外

③地域

2. 災害発生時に保健所として対応すべき課題は何か。3つ挙げよ。

（ア）組織管理者として上記の課題を解決するためには何をすればよいのかを挙げよ。最も重要なもの1つ取り上げて考えよ。（方法，範囲，対象，時期などを含めて考える）

（イ）上記課題解決のためにどこに，どんな対応・指示をするのか

①所内

②所外

③地域

災害発生時，中期，回復期の対応についての演習

中期

1. 災害中期に保健所として解決すべき課題は何か。重要なもの3つ挙げよ。
2. 組織管理者として上記の課題を解決するためには何をすればよいのかを挙げよ。最も重要なもの1つ取り上げて考えよ。（方法，範囲，対象，時期などを含めて考える）
3. 上記課題解決のためにどこに，どんな対応・指示をするのか
 - ①所内
 - ②所外
 - ③地域

災害発生時，中期，回復期の対応についての演習

回復期

1. 災害回復期に保健所として解決すべき課題は何か。重要なもの3つ挙げよ。
2. 組織管理者として上記の課題を解決するためには何をすればよいのかを挙げよ。最も重要なもの1つ取り上げて考えよ。（方法，範囲，対象，時期などを含めて考える）
3. 上記課題解決のためにどこに，どんな対応・指示をするのか
 - ①所内
 - ②所外
 - ③地域

(資料3) 組織管理シミュレーション(感染症)の演習プログラムの開発・実施・評価

国立保健医療科学院 疫学部 主任研究官 谷畑健生
人材育成部 主任研究官 橘とも子

<演習の概要>

本演習の目的は、感染症の集団発生急性期に、保健所組織をどのように集団発生に対応出来る組織にするのかを検討することにある。

演習課題は、わが国でもあまり発生したことの無いオウム病の集団発生の島根県事例を演習形式にまとめたものを使用した。集団発生の急性期における保健所の対応を求めており、受講者に対応についてのタイムテーブル、組織変成などをどのようにすればよいのかを演習した。

健康危機管理についての演習は少なくないが、本演習は流行調査を通して、病名探索、疫学手法の習得を目的とせず、健康危機に際しての保健所組織作り・運営に重点を絞ったところに特徴がある。

受講者へのインパクトを高めるために、今後演習内容をより具体性を持たせるように計らう必要があると考えられる。

<演習の手順>

○演習テーマ「鳥展示施設におけるオウム病の集団発生」

○方法

- ・演習のオリエンテーション、鳥展示施設の概説説明(15分)
- ・演習Ⅰ(グループ討議)(40分)
- ・発表(10分)
- ・演習Ⅱ(グループ討議)(10分)
- ・発表(5分)
- ・演習Ⅲ(グループ討議)(20分)
- ・発表(10分)
- ・演習Ⅳ(グループ討議)(20分)
- ・発表(10分)
- ・解説
- ・総合討議「なかなか情報提供してくれない事業者とのつきあい方」

○参照資料

感染症集団発生対策研修平成15年度版 島根県健康福祉部薬事衛生課 チームリーダー
村下伯先生

シミュレーション演習 初動対応

皆さんは，県型の保健所長です。

下記の情報Aを得たので，直ちに保健所内で対策会議を開催することとしました。

平成13年12月28日（金）16:30 松江市内の医療機関の医師から保健所に，「松江市内の鳥展示施設で実習を行っていた実習生が，現在入院しており，オウム病が強く疑われる。患者の抗体検査の結果は，12月31日にでる予定であり，確定診断は抗体検査の結果による。」との連絡が入った。

演習Ⅰ

初動対応として取り組むべき事項とタイムテーブルを整理して，保健所内での対策会議に提出してください。その際指揮命令系統・実働部隊の編成をわかりやすく図に書いてください。

次の情報を得ました。

平成13年12月28日金曜日

鳥展示施設に連絡が付かなかった。

演習Ⅱ

初動対応を変更してください。変更する理由も述べてください。

平成13年12月29日土曜日

鳥展示施設に連絡が電話で取れた。

演習Ⅱ

誰が電話をし，その短い電話でどんな会話をしますか？

（回答例）

「施設の実習生がオウム病の疑いとの医師の連絡があったので，そちらに連絡した。状況確認のため，そちらに出向きたい。」

演習Ⅲ

平成13年12月29日土曜日鳥展示施設に出向きます。どの実働部隊が何をしますか？部隊ごとにまとめてください。

それらは全て初動対応計画に入っていましたか？ 1. はい 2. いいえ

(回答例)

保健所職員が施設に出向き、

1. 鳥展示施設に対する調査

(1) 職員に関する調査

① 職員総数、鳥飼育スタッフ総数の確認

② 職員の健康状態の把握

肺炎の入院歴1名、肺炎入院中2名、体調不良者1名、風邪・発熱数名

③ 鳥スタッフの業務内容の把握

(2) 建物の構造に関する調査

① 施設全体図、各施設の図面等の確認

② 空調設備（冬季のため室内循環式となっていた）、排水設備の確認

(3) 鳥飼育状況に関する調査

① 飼育鳥の種類および数

② 飼育鳥の健康状態、病鳥の管理状況の確認

平成13年12月31日月曜日

情報Aの患者について、医療機関の医師から保健所に、

「オウム病クラミジア抗体検査（CF法）が有意に高いため、オウム病と診断した。追って届ける」

旨の電話連絡があった。

演習Ⅳ

a. この時点で施設に対してどんな対応を行いますか？誰がその対応をしますか？部隊ごとにまとめてください。

b. 保健所は施設以外のどこに何をしますか？また誰が連絡しますか？

c. これらは初動対応計画に入っていましたか？ 1. はい 2. いいえ

（回答例）

a. 施設に対して

1. 施設管理者に対する情報提供

① オウム病に関する基礎知識

② オウム病対策に関する通知（「小鳥のオウム病対策について」）

2. 施設管理者に対する指導

① 職員の健康管理を徹底し、有症状者は早期に医療機関受診するよう勧奨すること。

② 職員に対するオウム病抗体検査を含む健康診断を実施すること。

③ 職員へ衛生教育を行うこと。

④ 職員の健康状況について、発症等変わったことがあれば保健所に連絡すること。

⑤ 適正な鳥の飼育管理と職場環境の衛生確保を行うこと。

b. 近隣医療機関への情報提供及び患者発生状況の把握

平成14年1月以降、従業員にオウム病発症者4例、入園者の患者1名の報告が入った。

総合討議「なかなか情報提供してくれない事業者とのつきあい方」

業者はオウム病集団発生以前の鳥のオウム病クラミジアの排出状況評価，病鳥の発生状況，移動状況記録がほとんどなかった。病鳥の隔離も十分でなかった。（病鳥と職員はほぼ同じ空気を吸い，接触がよく行われる環境）

- 12月31日の時点 業者は「病鳥は4羽いるが，余所からきたのではない。これらの鳥は来園者と接触の可能性はない，」
- 1月12日 入園者からオウム病発生
- 1月13日の時点 業者は「病鳥4羽は，余所の施設からきた。また，入園者と接触する可能性がある」と訂正，自主的に閉園した。
- 1月15日 島根県松江市から集団発生状況の公表。医師会・胃腸期間に対して，オウム病の情報提供，一般住民向け相談窓口の開設。
- 1月16日の時点 業者は「病鳥とともに全21羽が，余所から移入された。これらの鳥は入園者と接触する可能性がある」。このため，一般入園者と感染鳥が接触する可能性があるとの判断から，松江市は閉園を判断した。

(資料4) 事例分析 組織管理シミュレーション(原因不明事例)演習プログラムの開発・実施・評価
(保健所長対象研修用)

橘とも子 国立保健医療科学院人材育成部主任研究官
谷畑健生 国立保健医療科学院疫学部主任研究官
健康管理研修のプログラムの開発・実施・評価

【組織管理シミュレーション1】 原因不明事例に対する健康危機管理

橘とも子 国立保健医療科学院人材育成部

演習課題 及び タイムスケジュール

15:10-15:15

1. 演習オリエンテーション (5分間)

15:15-18:10

2. 討議 および 発表・討議 (各グループの進行による事例把握・演習課題討議) (135分間)

A) 場面 1 : [設問 1]

(1)

(2)

[1グループ 発表・討議]

B) 場面 2 : [設問 2]

[1グループ 発表・討議]

C) 場面 3 : [設問 3]

[1グループ 発表・討議]

D) 場面 4 : [設問 4]

[1グループ 発表・討議]

E) 場面 5, 6 : [設問 5]

[1グループ 発表・討議]

* 事例は、1場面ごとに「場面(事例経過)」「設問」「想定資料」で構成されています。ひとつの場面の次に展開される場面は、あたかも前の設問の解答のように見えますが、決して「正解」ではありません。あくまでも「解答例のひとつ」に過ぎません。したがって、設定場面を基に、各グループで自由に討議し、文書等を作成してください。

[場面 1]

あなたは、今年度4月から中核市となったA市のA保健所に所長として勤務することになった。

昨年度までの保健センター所長としての経験では、「食品衛生、環境衛生、医療監視、本会議答弁・・・」等々は守備範囲になかった。今では支障なく判断できるようになり、来年度予算編成作業の本格化に取り組み始めようとした1月15日深夜P.M.11:50、あなたの自宅へ保健予防課長から電話連絡が入った。

保健予防課長:「昨夕保健予防課にベッド数35のQ病院から電話があり、急激な発熱とDIC様所見を呈する患者が続発して、5-6人死亡者が出ていると連絡してきた。発症当初病院では、患者家族が院内にもちこんだインフルエンザの流行を考え治療していたようだが、症状が通常より重篤であるうえに経過が速く、異なる部屋の患者に急速に拡がった。見舞いに来た患者家族に香港滞在帰りの者がいることから、新型インフルエンザの可能性も考え、ウイルス検索依頼を兼ねて保健所に報告したようだ。感染症対策として保健予防課がQ病院に対し初動調査を行ったところ、MRSAや薬剤耐性緑膿菌が複数の発症患者血液から検出されている結果が届いていた(初動調査結果 別掲)。院長は、『急激な発熱とDIC、死亡は原疾患では説明できない。何らかの感染症と考えているが、何が起きているのか調べて欲しい。』と言っている。いずれにせよ管内地域への流行防止策を念頭に置かざるを得ない院内感染症発生の可能性があるので、感染症予防法の対象と捉えざるを得ない。医療機関内のことであるため、医療法所管の生活保健課長と直ちに協議し、いずれを想定しても保健所が流行拡大防止策や原因究明調査に関わる必要があると合意した。」

あなたは、1月16日午前8:30始業と同時に所内緊急対策検討会を所長室で開くことを決定し、関係職員の出席を求めた。

急いで出勤したあなたは、午前8:10に到着した。早速、早朝出勤の職員から報告があった。「先ほど『Q病院入院中の患者家族』と名乗る住民から電話があり、A市でインフルエンザがこここのところ流行しているのかきかれました。担当職員出勤後回答しますとお答えしました。」

[設問 1]

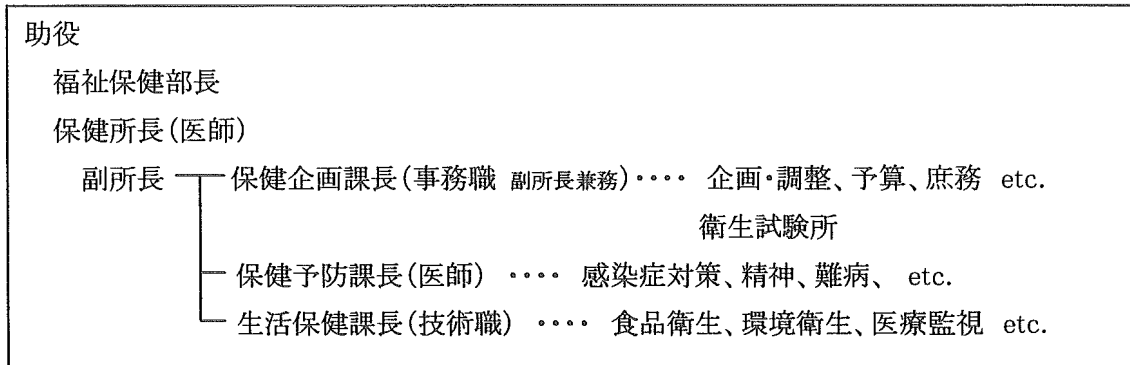
早朝所内緊急対策検討会に臨むにあたり、下記各項を検討して下さい。

- (1) 保健所として「対応すべき事項もしくは対応を求められる事項」、「法的根拠」、「基本姿勢」、は? 時間があれば、職員に具体的に指示するにあたっての課題・留意点も整理してください。
- (2) 初動対応として取り組むべき事項を整理し(必要な初動班編成など)、早朝緊急対策検討会の報告書類として作成し、調整の結果保健所が専門家を交えて16日夕方立ち上げることになった対策委員会会議に提出してください。

[想定資料 1]

① A市:人口50万。今年度中核市になり、A保健所が県から移管された。

② 保健所組織:



③ 初動調査の結果概要

名前	年齢	性	発熱日	転帰	培養結果
K,	24	女	1/7	死亡	
E,	71	女	1/8	死亡	
KA	80	女	1/8	改善	検査中
Y,	51	女	1/8	改善	検査中
T,	91	男	1/8	死亡	
TA	20	男	1/9	改善	検査中
O,	78	女	1/9	死亡	MRSA
S,	90	女	1/9	死亡	検査中
KU	60	男	1/9	死亡	薬剤耐性緑膿菌
I,	68	男	1/12	改善	検査中
YA	69	女	1/13	死亡	検査中
A,	58	男	1/13	改善	検査中

特記事項: 1) 急激な高熱、2) 白血球増加、3) 血小板減少、4) 2-5日で死亡

④ 「新型インフルエンザ」とは

日本で毎冬流行のみられるインフルエンザは、「A香港型(H3N2)」や「Aソ連型(H1N1)」等の既存インフルエンザウイルスによる。「新型インフルエンザ」とは、従来トリの感染症とみなされていた「鳥インフルエンザ」を起こす「鳥インフルエンザウイルス(H5N1)」がヒトからヒトに感染するタイプに突然変異して起こる感染症。H5N1 ウイルスの感染がヒトで初めて確認されたのは、平成9年香港の3歳男児(死亡)。同年18人のH5N1感染者中6人の死亡が確認された「致死性」H5N1インフルエンザは、ウイルスの突然変異により「高病原性」を獲得したことが確認された。平成13年香港政府は、養鶏場の鶏に多発するH5N1流行からのウイルス拡散を防止するため、鶏など家禽類120万羽を処分する等の処置にふみきった。平成15年には、中国福建省を訪ねた香港の一家が相次いでH5N1インフルエンザウイルスに感染し2人が死亡。既存インフルエンザが呼吸器を中心とした感染症であるのに対し、H5N1は播種性血管内凝固症候群(DIC)など多臓器疾患を引き起こす高病原性であるうえに、ヒト-ヒト感染を否定できなくなった。鳥のインフルエンザ流行は韓国・ベトナムほかが国でも山口県・京都府等に発生。(ヒト-ヒト)新型インフルエンザ流行の引き金になる恐れもあるとして厚生労働省及び農水省は監視態勢の強化を決定。その後、オランダでは鳥インフルエンザウイルス(H7N7型)によるヒト1人の感染・死亡が確認されたほか、平成15年末から16年にかけて東南アジア各地で鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)は猛威を振るっている。

⑤ 「薬剤耐性緑膿菌」とは

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における「薬剤耐性緑膿菌感染症」の定義は、「ペニシリン剤、β-ラクタム剤等多くの薬剤に対して耐性を示す緑膿菌による感染症である」。

【場面 2】

所内緊急検討会議の結果、①②2つの想定を中心に対策を展開することを決定した。

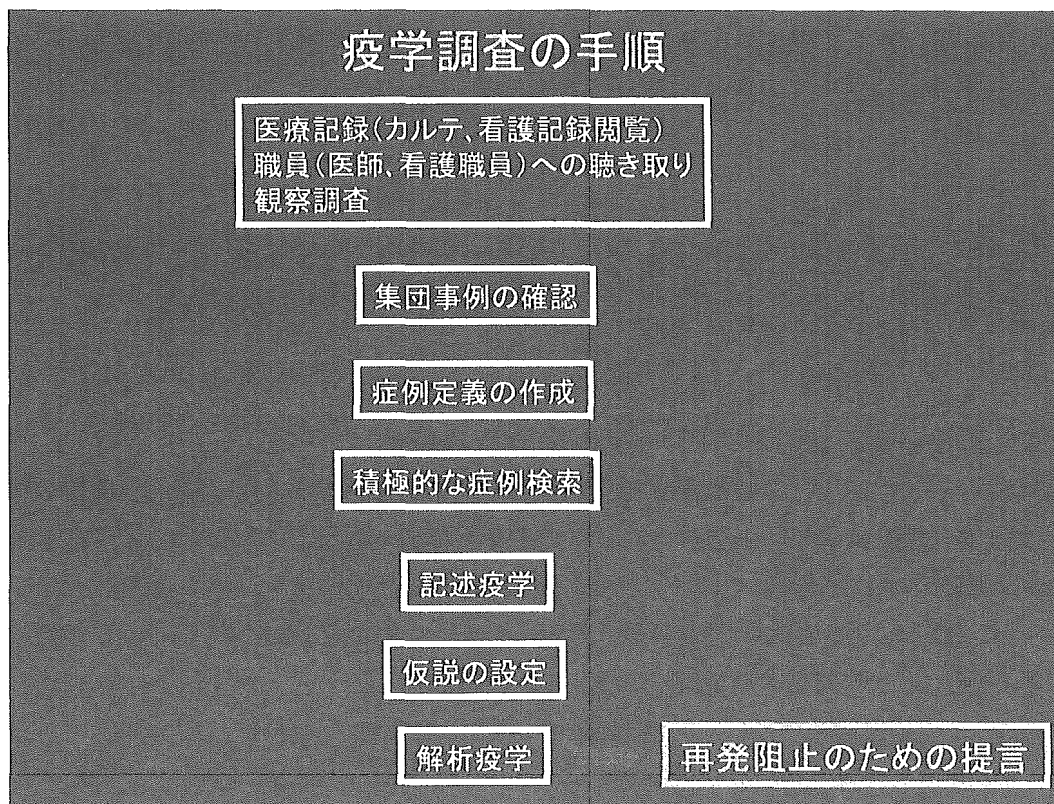
- ①「新型インフルエンザ、何らかウイルス性感染症」
- ②「MRSA、薬剤耐性緑膿菌等による院内感染集積(医療事故?)」

具体的対策

- a)「健康被害拡大防止策」： A病院内における拡大防止策は、原因究明調査に伴い同時に行われることになる。ここで保健所は、今回の感染症疑い事例をA病院内に限定してよいかどうか判断するため、「(暫定)症例定義」に一致する症状の患者が他にいないかどうか地区医師会等を通じて調べるなど、管轄全域の情報をとるべきである。
- b)「住民等に対する説明」： A病院患者関係者の間には、何らかの不安が拡がり始めているらしい。本来A病院に説明責任があるはずだが、1人しかいない常勤医の院長は治療に専念、説明する余裕がないらしい。A病院に対して、地区医師会に応援依頼するよう助言することも可能ではないか。
- c)「原因究明調査」： 病原体検索を併せた疫学調査が必要。目的は「再発防止策の科学的根拠とする」。
- d)「相談受付」： 住民等からの問い合わせ回答を統一する必要があるため、保健指導係長（保健師）を中心に回答マニュアル作成を指示した。マニュアルは状況に応じ迅速に変更できるよう、日時と版、発信者を明記して複写配布した。
- e) 庁内報告： 福祉保健部長、助役に概要および対応方針報告。広報に情報提供など。
- f) 対外調整： 地区医師会の会長、県、国など。
- g) その他：

【設問 2】

「原因究明調査」の計画骨子(保健所案)を作成し、第一回対策委員会に提出してください。
時間があれば、職員への指示、課題、留意点も整理してください。



[国立感染症研究所作成資料]

[想定資料 2]

Q病院概要

昭和57年設立。35床の一般病院。常勤医師は院長1名。

病院設立から3年前の院長代替わりまでは長期療養型病床群であった。

大学心臓外科出身の現院長となつてから、院内を急性期対応型病院に改修し、救急指定病院となつた。看護師常勤数は医療法配置基準を満たしている。看護師やヘルパーら病院職員の半数は、前院長時代からQ病院に勤務している。

A市には、地区医師会・歯科医師会・薬剤師会は各2団体。

A市周辺のB市・C市を含む3市で2次医療圏を形成している。

[場面 3]

原因究明調査は、概ね以下のように進めた。

幸いなことに、国立感染症研究所実地疫学チーム指導医師の専門的助言と協力を全面的に得ることができた。A病院院長とともに保健予防課長ら保健所職員は、行動を開始した。

- ① 患者カルテや看護記録などの診療録から疫学情報収集。定義期間中の入院患者全員について医療経過情報(症状、所見、治療など)を表にまとめた。保存検体から新たな検査結果が判明するたびに更新し、保健予防課長が一括管理した。また、過去1年間のQ病院における「菌検出数と種類の推移」を外注検査機関より収集するとともに、入院患者数・病院職員数の推移をしらべた。
- ② 聞き取りによる疫学情報収集。「新型インフルエンザを仮定した場合の感染経路(感染鳥との接触など)」は香港滞在帰りの患者家族中心に行った。「薬剤耐性菌の院内感染集積と仮定した場合の医療スタッフに対する医療手技等に関する聞き取り調査」を行った。
- ③ 病原体検索。「非発症患者も含め外注検査機関に保存されたQ病院入院患者の全検体の保存を院長が検査機関に依頼」→保健所衛生試験所ではウイルス検索能力に限界があるため、国立感染症研究所に協力依頼して迅速にウイルス検索。鳥インフルエンザウイルスは検出されなかった。患者検体および医療器具の収去検体(検体採取と同時に感染拡大防止目的)・医療スタッフ手指院内各所のふきとり検体など → 細菌学的検索・エンドトキシン定量。
- ④ 観察調査。→ 写真記録。流行曲線。部屋見取り図上の発症者マッピング。

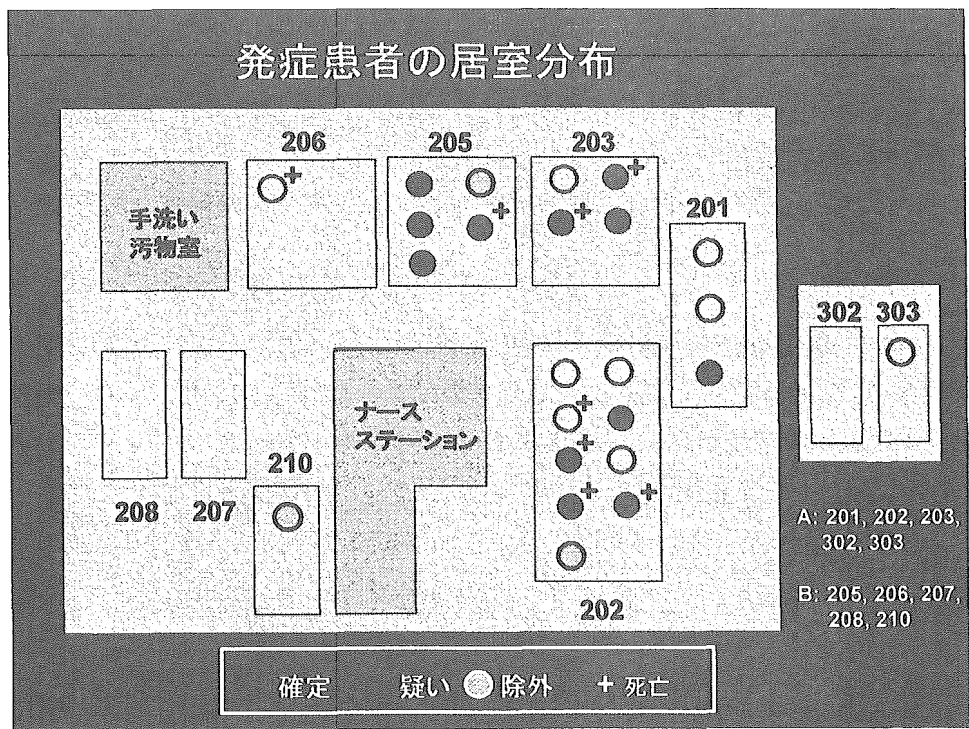
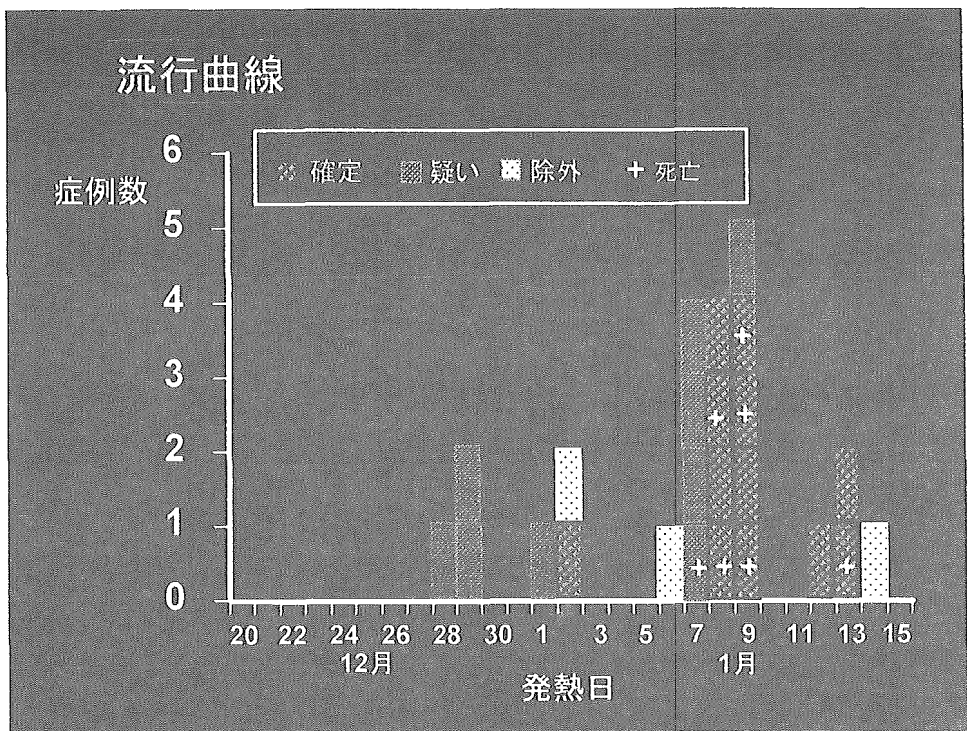
16日

高度の専門的判断を要するため、保健所では本件の対策委員会を立ち上げることになった。

本日 17:30～19:30 開催を決定した。緊急にも関わらず専門家ら全員の出席による第1回対策委員会を開催できることになった。

[設問 3]

課長以下職員は対応に追われています。委員選定も含め第一回対策委員会で検討すべき事項を整理し、会議レジュメおよび資料目録として提出してください。



[場面 4]

第一回対策委員会では、

「委員会の位置づけおよび所掌事項の確認・決定」、

「対策委員長・専門調査班長の選任」、

「発生概要および現時点における判明事実の確認」、

「具体的対策方針の検討及び確認」、 などについて委員会では検討した。

特に「原因究明調査」は、内容が高度に専門的であることから、対策委員会の中に専門調査班を設置してこれにあたることになった。

また、調査の進行に伴い、新しい事実(細菌検査の結果など)が判明すると予想される。判明した情報は保健所単独で判断せず、必ず専門調査班会および対策委員会における検討・確認を経た後に、積極的に公表する旨も決定事項として加えた。

17日

原因究明調査に必要な聞き取りやふきとり検体採取・検体搬送などの作業は、保健所の生活保健課と保健予防課、衛生試験所(保健企画課)の連携で進めた。また、Q 病院から今回急遽転院して行った患者のフォローアップが保健予防課の保健師中心に行われた。保健企画課は、予算調整のため財政課に走った。

18日

A.M.9:00。非発症者も含め、疫学的・臨床的にウイルス感染は否定的となり、薬剤耐性菌血液感染の可能性が大きくなってきた。何らかの医療行為に伴って生じた可能性もある。死亡者が多数出たことを考慮し、P.M.3:00 に病院長が自ら記者会見をするという知らせが入った。

[設問 4]

病院記者会見に向けて保健所内で準備すべきことはありますか。必要な対応準備事項を整理し、職員に対する指示書として提出してください。

危険因子の解析

	留置針		へパロック・検査		気管内挿管		ネブライザー		吸引		尿カテーテル	
	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-
症例	16	0	16	0	7	9	6	10	7	9	12	4
非症例	3	9	1	10	1	10	4	7	4	7	4	7

	O.R.	95%信頼区間	P値
留置針	38.25	3.07 - 1096.84	P < 0.01
へパロック・検査	93.50	5.88 - 3714.98	P < 0.01
気管内挿管	7.78	0.67 - 203.91	P = 0.052
ネブライザー	1.05	0.16 - 6.86	P = 0.952
吸引	1.36	0.22 - 8.80	P = 0.701
尿カテーテル	5.25	0.76 - 41.27	P = 0.044

健康危機に際しては、組織管理の重要性もさることながら情報管理が重要である。保健医療福祉分野では個人情報も多く扱うため、ことに注意を要する。情報授受の「迅速性」・「正確さ」に加えて、「整合性」を図りつつ「個人情報保護」への配慮が求められる。

[場面 5]

病院長は地区医師会の助言を得ながら記者会見準備に臨んだ。

あなたは、福祉保健部長、助役の意見を仰ぎつつ保健所内準備指示にあたった。病院の記者会見でメディア報道となれば、多方面から問い合わせが入る可能性がある。

- ◆ 報道機関への問い合わせ対応体制：管理職対応
- ◆ 住民問い合わせ・相談：保健（福祉）センターとの協力体制、マニュアル化、迅速情報提供。感染不安など保健医療上の相談には地区医師会はじめ3師会の協力も。
- ◆ 周辺市町村：所長会・主幹部長会などのルートで情報提供
- ◆ 議会
- ◆ 3師会
- ◆ 県・国
- ◆ その他

P.M.3:00 を目指して準備を進めていた P.M.1:30、Nテレビ局で「Q病院で院内感染疑い 6人死亡。保健所調査中。」とテロップが流れた。驚く間もなく保健所内の電話が次々鳴り出し、問い合わせが多方面から始まった。保健所回答の整合性を図るため、「具体的回答内容に関する合意事項と Q&A マニュアル」を早めに準備しておいてよかった。職員は的確に対応出来ている。

…と、そこへQ病院から転院していった患者Pが入院しているR病院院長から電話が入った。「患者Pの見舞客と名乗る者が来ているが、どうもNテレビ局の記者らしい。Pの治療内容をQ病院に尋ねたいのだが、Pの個人情報マスコミに漏れる可能性があり身動きがとれない。何とかして欲しい。」

一方、病院の記者会見場には県警が詰めていた。「『Q 病院の看護師が患者の点滴ルートに細菌汚染尿検体を故意に入れたらしい、と噂が流れている。保健所の調査について詳しく説明してほしい。』と警察から申し出を受けた。毒物@の可能性も考えているらしい。転院して治療している患者のいる病院に伝えなければ。」と現場の課長から所長室に連絡が入った。

[設問 5]

健康危機管理の原因究明調査では、健康被害の種類によって国内外の様々な外部専門家集団が関与する可能性が多々あります。「原因究明調査」と「対策」をの総合的マネジメントが保健所に求められることとなります。

一方、事件性立証のために警察も原因究明調査を同時に行っている場合が多々あります。「警察との連携は難しい。警察はあくまでも調査を独自で行うので時として保健所疫学調査の妨げになる。」実際に健康危機を経験した自治体からそんな声が聞かれています。

「健康危機管理における警察と保健所との連携改善」。解決方法について、皆さんの経験・知識・知恵からご意見をください。

[場面 6]

病院記者会見直後は、嵐のような毎日であった。平日は平常業務を行いながら、Q病院対策に当たらなければならない。土日を含め休日出勤せざるを得ず、メディア対応に追われた。自宅にも報道関係者らしき人から電話が何本も入り、多忙を極めた。

保健所の関係職員全員が同様に多忙であるため、あなたは保健所内における「情報管理」および「組織管理」を目的として、毎朝始業前 20 分程度の「Q病院感染症対策打ち合わせ会」を提案した。関係職員 10 数名は毎朝迅速に所長室に集合したため、報告、指示の繰り返しにより、情報を間違いなく共有することが出来た。

警察の係長は一日おきにやってきた。「疫学調査」「オッズ比」の説明をせよ、という。
所長室で実地疫学の講義をせざるを得なかった。

一方、Q 病院で今回亡くなった患者さんの遺族と名乗る方から電話があった。連日の報道にいたたまれず、眠れない日々が続いているという。保健師が丁寧に対応した。

また、Q 病院から戻ってきた職員が課長を通じて報告した。Q 病院の看護師が皆精神的に参ってしまったらしい。Q 病院は小さいながらも地域の拠点病院であるため、入院はストップしているものの外来診療は続け、周辺住民の健康維持に寄与していた。Q 病院自体も支援しなければ。

……混乱はまだまだ続いている。

全貌解明により、早く「再発防止策」のしくみづくりに着手できる日を迎えたい。

あなたは所長室で、ひとり考えた。

「原因不明事例に対する健康危機管理」 演習

グループ名: _____

設問1-(1)